論文要旨

筆者は公学校が日本語を学習する場所だと思っていた。日本は統治する時代は植民者が使用する言語が日本語である。周りで日本語が囲まれた時代、公学校の教育はもちろん日本語に重点を置いた。しかし、筆者は大学時代で台湾言語概論の授業からあの時日常生活の手紙で漢文を使用したのをわかった。漢文は台湾で伝統的書き方である、そして、日常生活で必要な技能である。公学校が日本語を教えた同時に漢文科を設立して漢文を教えた。

本研究は「漢文読本」を通して公学校で漢文教育を行う状況を明らかにする。総督府は 1904 年と 1919 年で二種類の『漢文読本』を発行した。この二種類の『漢文読本』は『台湾教科用書漢文読本』と『公学校用漢文読本』である。それは 1904 年に漢文が独立の教科として、公学校の教授科目の一つになり、教科書が必要とされたためである。1919 年に『漢文読本』が再発行されたが、それは漢文科の時間数が減少したためである。

本論文の研究目的は公学校の漢文教育の変化、公学校の漢文教科書の内容を検討することである。日本語からの借用語彙は漢文を近代化した。台湾総督府の政策が公学校の漢文教育に影響し、漢文の授業の時間数を減少したため、教科書は授業の時間数の減少に合わせて修正の必要があった。台湾総督府の政策が公学校の課程と教材に影響を与えたことがわかる。台湾総督府は徐々に漢文の授業の時間数を減少させる政策をとった。その結果、子供たちが漢文を学ぶ機会は減った。また、「漢文読本」日本語の借用語彙をもたらした、日本から借用語彙が漢文の語彙が漢文の語彙に入った。それは漢文の近代化に役に立った。近代の物事と新しい概念を紹介する際に、漢文の中に適当な翻訳する語彙が見つからなかったので、日本語の借用語彙をそのまま使用したのである。子供たちは公学校で近代の物事と新しい概念を吸収すると同時に日本語から借用語彙も吸収した。日本語の借用語彙が漢文の語彙の一部分になった。

台湾総督府は 1896 年に「台湾総督府直轄緒學校学校官制」を公表し、台湾の各地に「国語傳習所」を設立した、これは日本語で教育の機構で、通訳員を育成するために台湾人に日本語を学ばせた。通訳員の育成が主要な目的だった。現実の問題に対応するために通訳が必要だった。国語伝習所は学生を甲、乙の２科が分けた。甲科では四書五経を読んでいて漢文知識も身に付けている、15 歳から 30 歳までの学生を募集し、半年間で日本語教育を実施した、甲科生は、この日本語教育終了後、初級の行政官吏や日本語教師として採用された。同時に、台湾総督府は特待生の給料方法を制定し、毎日食事費 10 錢と手当て 5 錢を給付した。

台湾総督府は 1898 年に「台湾公学校令」を制定した。公学校を設立して国語傳習所に取って代わった、台湾の正式的教育機構を建った。台湾は現代化された教育機構が始まった。初めて「学校」という概念が現れた。

公学校を設立した時漢文科がなかった。読書科を設立した。日本語の読み方

と漢文を学習した。読書科は毎週授業時間数が 12 時間だった。漢文の教科書は三字經、孝經、大學、中庸、論語などを採用した、言い換えると、読書科は漢文の儒家典籍を教えた。国語伝習所時代の経験に沿った。漢文は台湾語の文言文というもの、日常の口語ではない。漢文科は讀書科の下に見えた、公学校の教学科目の一つにならなかった。漢文科は台湾人が昔ながら使用した教材を採用した、書房の教材とほぼ同じだった。読書科は第一から第四学年までの読書課程が台灣句讀によって進行した（台湾語の文言文の発音）、しかし、第五、第六學年まで日語訓讀法によって（日本語発音で漢字を読む）進行した。言い換えると、学生は繰り返し同じ内容を学習していた、違う言語を教学媒介としただけだった。

公学校の募集状況があまりよくなかった、それは大部分に台湾人が子供を書房に通わせたので、子供は公学校に通わなかったからだ。書房はもともと下級科舉功名を備える知識人が後輩を指導した場所だった、日本は台灣を統治した後、科舉試験を行わなかった、知識人は科舉試験によって政府で仕事することができなかった、つまり、知識人は科舉試験を参加することができなかった。一人一人が生活手段として書房を開設した。だから書房の数量と学生の人數が大幅に成長した。公学校の学生は主要が中流と下流階層の家庭の子供だった、上流階層の家庭は子供を書房に入学させたので、公学校は中流と下流階層の家庭の子供を対象として募集した。しかし、中流と下流階層の家庭は国語伝習所の手当てを削除されたことを理由に、子供を公学校に入学させなかった。国語伝習所は学生に手当てを提供したので、親は子供に国語伝習所に通わせたら、家庭の経済状況の改善に役に立った。しかし、公学校は手当てがなくて学費を払った、親は子供を公学校に入学させたら、家庭の経済状況の改善に役に立たなかった、子供を公学校に入学させなかった。だから公学校は大部分の時間が学生を募集するのの忙しかった、自然に教學内容の充實と改善する暇がなかった。公学校は書房と競争するために、公学校の入学の人数を増加させた、1904 年に讀書科の漢文課程を引き抜いた、漢文科を設立した、そして書房の教師を採用して漢文科の教師に務めさせた。書房と競争した。公学校は台湾人が十分に重点を置く漢文科を開設しなければならなかった。そうでなければ台湾人を公学校に入学することを吸引することができなかった。

漢文科の毎週授業時間数は 5 時間だった、新な規則は漢文の価値を認めた。単独に一つの科目を設置した。漢文科の設立に合った、総督府は教材《台湾教科用書漢文読本》を編集した、昔、子供が心理発展に適さないに四書、三字經などの教材を削除した。なるべく簡単な文体を選んだ。実用に適した内容と、必要な漢字を学習に要求しただけだった。実際の生活で常に使わない漢字は省略することができて学習しなかった。新たな設立した漢文科の教学の時間数は読書科より少なかった、しかし、《台湾教科用書漢文読本》が子供の心理発展に合うように教材を編集した。理解しやすくて実用性が高い文章を選んだ、そ

して、教材が子供の生活で物事と結びつけた。1898 年の読書科で使用した四書五經より、子供の生活で物事に近かった。

1918 年に漢文科の授業時間数は毎週兩時間を縮減した、漢文の授業時間数を縮減した原因は日本語普及の運動が進まなかったからだ。1915 年まで日本が台灣を統治したのは 20 年だった、しかし、日本語が上手な人口が 10%に足らないので、総督府は漢文を削除する主張を提出した。漢文は日本語が推行するのに最大な障害と考えた。だから漢文科の授業時間数を減少させた。1922 年に「台湾公学校規則」を公表した。漢文科は毎週兩時間の選択科目に変わった、そして各地方の狀況によって、漢文科を削除するかどうか決定した。多くの公学校は漢文科を削除した、台湾社会で漢文科を戻すことを要求する声が現れ始めた。漢文書房と学会が設立された。親は子供を夜で書房に行って漢文教育を受けさせた。公学校の漢文教育の不足を補った。この状況は年ごとに減少した書房が再び增加させた。総督府は漢文と日本語が推行した政策が衝突したと考えた。日本語の普及が予想通り進まなかった、日本語が理解できる人口の成長の速度がとても遲かった、日本語はまだ台湾社会に深入りしなかった。総督府は漢文が日本語の推行えを障害すると考えた。だから徐々に漢文の授業時間数を減少した。漢文に選択科目が変わった。

1918 年に課程を修正して漢文の授業時間数を減少した。教材も必ず課程に合うように改めて修正した、だから 1919 年に《公学校用漢文読本》を改め修正して元の《台湾教科用書漢文読本》に取って代わった。《公学校用漢文読本》は《台湾教科用書漢文讀本》より量がたくさん減少した。教材を減少しなければ、授業時間が減少した状況で、子供の負担が重すぎた。教材の内容を理解することができないので，学習の効果が低下した，教師は授業で困った。だから課程に合うように教材を修正した。新しい教科書はもともと毎卷四十課のレッソンが毎卷二十六課に縮減したほか, 主要なところは古い教科書の欠点を改善した，日常生活で必要な手紙の文体、商業の文体、契約、広告など應用文の量を增加した。新たに修正した《漢文讀本》が台湾人の需要に合った。大量に応用文を增加した。台湾人が日常生活で物事を扱うことができるようにした。

『台湾教科用書漢文読本』と『公学校用漢文読本』も以下の内容が備えた：（1）近代科学文明、（2）道徳教育、（3）台湾の物產、文化、（4）中国の物事、（5）実業教育、（6）日本の文化、（7）自然科学。近代科学文明は十分に汽車、船、電球、ガス、公園、博物館と動物園など近代文明が日本内地に進步をもたらした風景を紹介した。これらはその時に文明進步の設施を代表するものだ。日本は明治維新の時近代化に達成した。西洋国家を学習對象とした。西洋の本を翻訳した。西洋の文化を吸收した。子供にそんな文明建設が日本明治維新成功を助けたのをわからせた。漢文によって近代化の知識を学習した。日本近代化過程なかで，教育は一番重要の媒介だった。教育を通して近代化の概念にかかわる知識と概念が子供の心に深入りすることができた。道德教育は子供に団

体の規範を守るために教えた。他の人に迷惑をかけないように、子供の礼儀を育てた。子供に個人の義務をよくわからせた。誠実で信用できる人間になった。他の人に約束した事は必ずする、することができない事だったら他の人に約束しない、子供に社会で生活する能力を養った。また、法律教育を進行した。子供に法律を守る概念を養った。台湾の物産、文化の教材が子供に親近感を生み出した、そんな教材は子供が馴染みの物事だったので、よく学習の動機が高まった。教材は近いところから遠いところまで，家庭、隣り近所から国家までを編集した。子供が馴染みの物事から始まって編集した。子供は教科書で馴染みの物事を見て共鳴を生み出した。子供が共鳴を生み出して自然に学習の意欲を増加した。中國物事の教材比例がとても少ない、『論語』から一部分の文章を選んだ。子供に他の人に扱う道理を教えた。実業教育は子供に農業、工業と商業方面の知識を教えた。実用な技能を学習した。公学校を卒業後で中学を進学することができた台湾の子供が少なかったので、台灣の子供の大部分は公学校を卒業後、就業の問題に臨んだ。公学校に通った時に就業のために準備をなければなりません、自分で専門を学ぶに従がって仕事を探した。また、様々な職業は苦しいところがある、様々な職業の地位は平等だ。日本の文化は子供は全然知らない、台湾は紀元節、天長節など祝日がなかった、これらは日本の祝日だった。自然科学は子供に自然界の現象と動物の習慣を教えた。たとえば西北雨の形成や螢火蟲の特性などだ。、子供にさらに自分の生活の環境をわからせ、子供が周囲の環境の變化を観察することを望んだ。とにかく、子供は漢文科でいろいろな知識を学習した。